

AGI認識のギャップ：開発現場と利用現場の「現実」を読み解く

開発現場の「現実」



公開モデルと「内部モデル」の性能差



開発現場では、公開版を遽かに凌駕する未公開モデルが研究に採用されている。



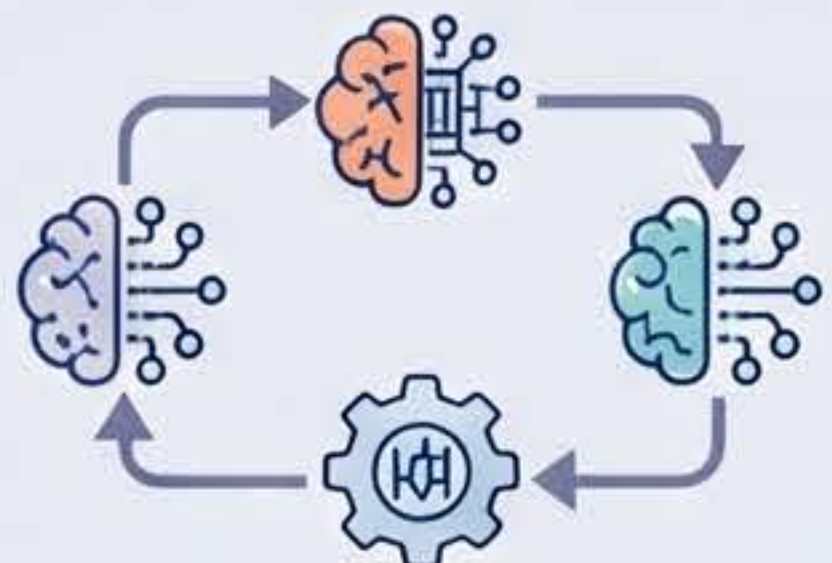
単体チャットと「システム」の差



長時間の推論、数万のエージェント、専門家の介入を組み合わせたシステムは、日常利用とは別次元の成果を出す。



AIによる研究開発の自己加速



AIが自ら実験を主導・協働する工程（Anthropicでは業務の90%超で協働）が、進歩の体感速度を上げている。

AI主導の研究業務比率
(Anthropic, 2026/08)

28%

全業務の26%をAIが主導（90%超で協働）

研究者のAI利用額
(OpenAI, 2020/08)



研究者1人あたり1日
600ドル超（API投算）

アルゴリズム最適化
(Google, AlphaEvolve)



計算処理を23%最適化、
訓練時間を1%短縮

利用現場の「現実」と実務的な対応

企業が取べき実務的な対応

「AGIか」ではなく
「特定の能力」を
を問う



名称の確定を待たず、
自社のどの工程が任せ
られるか、費用対効果
はどうかを具体的に評
価する。

成功の鍵は
「モデル+環境」
の整備



優れたモデルを得るだ
けでなく、適切な資料
検索や実行環境を整え
る「能力を引き出す投
資」が不可欠。

未来に向けた
「資産」の蓄積



機械利読可能な資料や
高品質な評価課題を整
えることで、次世代モ
デル登壇時に即応でき
る体制を作る。